

イトイ

Juncus maximowiczii Buchen.

イグサ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

石川県内にもともと稀産する植物であるが、生育環境の亜高山(白山)の森林環境が森林開発等により近年減少しつつあり、併せて自然遷移、産地極限。自然遷移の進行により絶滅の危険が増大している。(現況:RO)

形態

全草が淡緑色で軟弱、青白色の花を着けるので他種との区別は容易。茎は高さ5~15mm、茎葉は普通1個、上部に深い溝がある。基部にある葉は数個で茎より長い。葉耳は白色で小型。頭花は1個で、1~4数個の花で構成、花被片は青白くやや鈍頭、長さ3~4mm、乾くと淡褐色。蒴果は長さ7mmで、三稜状楕円形、淡褐色で光沢がある。

国内分布

本州中部。国外では朝鮮に分布。

県内分布

白山高地区。

生態など

多年生草本、開花期は6~7月。

生育環境

亜高山、深山の岩上。

危険要因

自然遷移、産地局限、踏みつけ。



白井伸和・2002年7月27日

分布図はありません。

県内の分布